◎連続掲載　未来へのたすき

白河を輝かせる7つのヒント

■特集／しらかわ大使の言葉

11月13日、東京都内で「しらかわ大使懇談会」が開催され、「本市をどう感じているか。しらかわ大使として今後どのような協力ができるか」をテーマに話し合いました。今月号では、懇談会の内容を抜粋して皆さんにお届けします。

▲本市にエールを贈るしらかわ大使

1　多くの若い人に将来の夢を描いてほしい

10年後の白河市はどうなっているのでしょうか。私たちの企業では10年計画があり、職員もそれに向かって進んでいます。今回、震災があり、今後の福島県、そして白河について議論してもらいたいですね。そういった議論の場に、30代の人に参加してもらいたいと考えています。できるだけ若い人に白河のことを考えてもらい、将来の夢を描いてもらえればと思います。

神戸市に住んでいる旅行好きの方に、「白河に行ったことありますか」と尋ねました。「白河の関は覚えていますが、一回行けば十分です」と答えが返ってきました。白河は今まで客の目で観光政策を考えてきたのでしょうか。自分たちに無いものを感じる、外の目を意識した政策が必要です。白河だけでできなければ、会津若松市などと連携した広域的な観光を考えていく手段もあると思います。

浅井光昭氏　Asai Mitsuaki

住友ゴム工業㈱相談役、元同社取締役会長

2　感情から現実へ転換し、自立の精神を

風評被害の点については、利もある場合もあれば害になる場合もあります。警察時代に西日本に勤務しましたが、白河以北みな東北の意識です。大文字焼きの薪、北九州市の瓦礫の受け入れ拒否などの問題でも分かるように、これから情から主観から客観へ、感情から現実への転換が必要です。現在、東北を応援しようという意識が薄れつつあります。東京電力㈱の電気料金の値上げや政治の変化（格差是正・定数是正）などあるため、理や現実に導き、さらには自立の精神が必要となります。

高崎市が10月に東京ステーションホテルで企業誘致のフェスティバルを行いました。高崎市の宣伝文句は白河市と似ています。交通が便利、災害がない、企業の優遇策がある、福だるまでしたが、白河は負けないと思いました。ぜひ、アイデアを駆使して頑張ってほしいと思います。

人見信男氏　Hitomi Nobuo

㈱サン綜合管理代表取締役社長、元警察庁交通局長・元警視庁副総監

3　価値観の崩壊を、新たな福島を創造する力に

復興に対する世間的な目が下火になっています。避難している方も金銭面では今の生活をなんとか維持している状況ですが、今後の福島県の展望が見えません。仮のまち構想、コミュニティをどこに作ればいいのか分からないなど、政治のリーダーシップが必要です。

神戸震災と東日本大震災はどこが違うのでしょうか。神戸市の場合は12万人が神戸を離れました。自然増減により10年ぐらいで人口は戻りました。しかし、社会増減では、地震で出た方は戻ってきませんでした。福島は自然増減・社会増減ともマイナスで、神戸のデータからも福島を離れた10数万人は戻ってこない可能性があります。2030年で150万というデータもあり、現実になると考えられます。福島全体の在り方や価値観が根底から変わり、今後、皆さんがしっかりした夢を持つことがとても大切です。

田口信太郎氏　Taguchi Shintaro

東邦銀行取締役、元ＮＨＫ福島放送局長

4　地方の優れた産業を再評価すること

私は、デザイン業としても、地方の産業の復活、職人の復活というプロジェクトをしています。ファーストファッションの台頭により、地方の優れた産業が潰されています。福島県はセーター、染物や木綿などの伝統的な産業がありましたが、今では岡山市・倉敷市の一部しかありません。そのため、プロジェクトを通して、職人を起用して伝統的な価値を認めてもらう作業を、デパートなどの小売店に訴えています。

また、鳥取県に取材に行く機会がありましたが、すごく良いまち並みでした。全体的な完成度が高く、多くの観光客で溢れていました。レトロなまち並みで、そのまち見たさに人は訪れます。雰囲気が白河と似ています。横浜市ならば六角商店街など、古さを活かしたものが、多くの人を呼び込んで、まちの活性化につながると思います。

川瀬七緒氏　Kawase Nanao

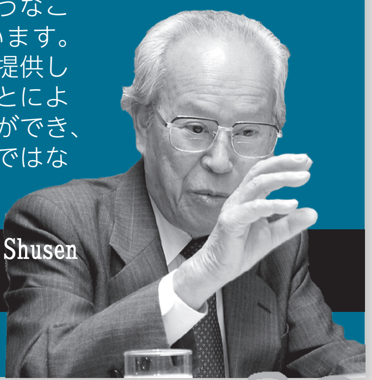
第57回江戸川乱歩賞受賞作家

5　はがき１枚のチャリティの実現を

白河市に行く機会がありました。以前はまちに人も歩いていない状態でしたが、市立図書館やイベント広場ができ、活気を感じました。さらに今後、市民文化会館の建設もあり、本当に楽しみにしています。

国の放射能測定器の測定ミスには不信感を感じます。しかし、白河では徳島大学の協力を得て、不安解消に向けて事業を進めていることは大変良いことです。

しらかわ大使としての協力ですが、東日本復興のために私の所属する美術協会で、はがき１枚に絵を描いたチャリティを行いました。白河でも小中高の美術の先生のお力をお借りして、このようなことができないかと思っています。先生にはがき１枚の作品を提供してもらい、一堂に会することにより、参加した方が学ぶことができ、さらに復興支援にもなるのではないかと考えています。



今井珠泉氏　Imai Shusen

日本画家

6　企業の機能の一部を呼び込む開発センターを

私たち業界は、日本より海外で展開しなければならない現状です。福島県内に２つの工場があり、統合を考えましたが、形態を変えて残しました。残した意味は、開発センター構想や自動車業界にとっての設備・治具は分散化できません。日本のものづくりの知恵が一番発揮できるところと考えているからです。

その観点から、開発センター構想のような、海外に移転していっているものづくりの原点を、国がサポートする体制を整えることが大切です。福島の高い技術を活用できるよう、行政が企業を支援し、付加価値の高い製品を作ってもらうことは重要です。一方では、地場産業を育成させることが大切です。

企業にとって魅力的な白河には、現存する企業に、機能の一部を呼び込んだ開発センターはできるのではないかと思います。

戸井田和彦氏　Toita kazuhiko

㈱ファルテック取締役社長、元日産自動車㈱常務執行役員

7　白河に行かなければならない理由を

私は「福島を食べようツアー」を計画してます。昨年、角館市にプロデュースした１泊３万５千円の宿があり、箱根に行くよりも運賃は掛りますが、多くの人に利用してもらっています。これを考えると、白河市に行こうとしたとき、どれだけの宿泊施設があるでしょうか。安全・安心・健康をテーマとした施設があれば、立地の良さからも多くの方が訪れます。そのような施設を作ってもらえれば、私はツアーを組んで行く用意があります。

白河は、東京から新幹線で約１時間。本来は夢が持てる場所です。松尾芭蕉の文化、昭和のまち並みなど、白河に行かなければならない理由を考えなければなりません。宿泊・食事・やすらぎがキーワードです。まちに人が歩いていないならば、二期倶楽部（那須町）のような隠れ家的なものを考えればいいと思います。

野崎洋光氏　Nozaki Hiromitsu

「分とく山」総料理長